



平成30年11月9日
海上保安庁

JICA 研修員が、海上保安庁測量船による沖合いの測量を体験します
～最新の海洋調査技術の習得～

海図作製のための水路測量技術の習得を目的として来日している4カ国6名の独立行政法人国際協力機構（JICA）研修員は、11月19日及び20日の2日間、駿河湾において海上保安庁所属の測量船「明洋」に乗船し、沖合における測量をはじめとした最新の海洋調査技術の習得を目指します。

海図作製のための水路測量技術の習得のため、各国の関係機関の水路測量技術者（4カ国6名）が、本年6月下旬から来日し、JICAと海上保安庁が協力して実施している研修に参加しています。今回、測量船に搭載された最新の海洋調査機器の操作方法やデータ処理方法の習得を目的とし、11月19日及び20日の2日間、駿河湾において海上保安庁所属の測量船「明洋」による乗船実習を実施します。

○実習日程及び内容（予定※）

- ◆11月19日（月）12:30～15:30（清水港に停泊したまま実習を実施）
 - ・乗船式（岸壁もしくは着岸中の船内で実施）
 - ・観測機器等の投入操作や、船に持ち込む観測機器の固定方法（ロープワーク）等の実習（着岸中の船内で実施）
- ◆11月20日（火）09:00～15:30（9:45頃清水港出港、15:00頃帰港）
 - ・水深データの取得等の実習（航海中の船内にて実施）
 - ・下船式（岸壁もしくは着岸中の船内で実施）

※ 天候等の理由で実習内容を変更することがあります。

○今年度の研修員（4カ国6名）

インドネシア3名、ミャンマー1名、パプアニューギニア1名、フィリピン1名

※研修全体の概要については、6月22日広報資料（別添）を参照。

○測量船「明洋」停泊場所（出入港場所）

- ・清水港（静岡県静岡市清水区）

○実習予定場所（駿河湾）



○過去の实習風景



乗船式の様子



ロープワークについて指導を受ける研修員



観測機器投入作業について説明を受ける研修員